平成２７年度　各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	沿岸南部教育事務所	学校名	大槌町立吉里吉里中学校	TEL	０１９３－４４－２３１０

『　授業改善と家庭学習の指導を通して取り組む学力向上　』

【今年度の目標】・・・岩手県学習状況調査において

① 各教科における正答率を５０％以上にする。
② 中２の国語においては、「読むこと」の正答率を２０％引き上げる。
③ 中２の数学においては、図形領域の正答率を７０％以上まで目指す。
④ 生徒質問紙「授業の内容がよくわかる」の１番の回答を各教科とも増加させる。
⑤ 生徒質問紙「学校の授業以外で、一日にどのくらい勉強しますか」の回答で、１時間以上の生徒を増加させる。
⑥ 生徒質問紙「自分にはよいところがありますか」の回答で、「ある」と思う生徒を増加させる。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

（１）授業改善と学習指導の充実

① 授業スタイルの統一化について共通理解を図り、授業改善の取り組みをおこなった。
② 各教科課題解決のための取り組みについて年間スケジュールを立案した。
③ 学力検査（ＮＲＴ・全国学調・県学調・ＣＲＴ）の分析、事後指導について共通理解を図り、指導に生かした。
④ 学習規律について共通の指導項目を作成し、月ごとに重点化し指導を継続的におこなった。

（２）家庭学習

① 授業で指導した内容と連動させた宿題を毎日提示し、定着に向けたサイクルを確立した。
② 「自主学習」の手引きを作成し、担任と教科担任で指導を、年間を通じておこなった。
③ 帰りの会で、家庭学習の計画を立てる指導を担任がおこなった。

【具体的な取組】

（１）授業改善と学習指導の充実

① 小中一貫の教育推進を通して、大槌町が目指す授業スタイル（ア、「課題」が明らかな授業　イ、「学び合い」があり高めあえる授業　ウまとめ・振り返り）で学んだことが分かる授業で学んだことが分かる授業の実現のため、教師一人一研究授業の取り組みをおこなった。
② 各教科において、今年度の取り組みを「自己解決シート」に記入し、一年後の生徒の姿を目指した計画性のある取り組みをおこなった。
③ 県学調⇒CRT⇒NRT⇒全国学調の流れを意識し、分析、課題点の共有・改善・検証のサイクルで学力向上を目指した。また、明らかになった弱点や落ち込みの再指導をした。
④ 長期休業中に、学習会を実施し、国数英を中心に補習活動を実施した。
⑤ 月に一つ、学習規律の指導についてポイントをしぼり各学年で指導、評価にあたった。

（２）家庭学習

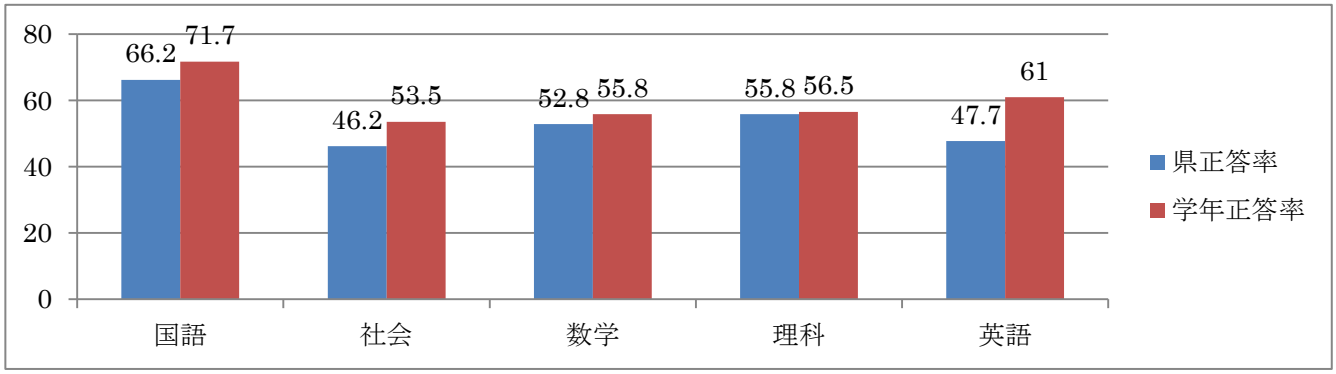
① 小中一貫教育活動で、「家庭学習のすすめ」を作成し、９年間を見通した家庭学習について生徒、保護者に説明、指導をおこなった。
② 家庭学習の方法や内容を具体的に指導し、各教科の宿題は職員室のホワイトボードを通じて情報を共有した。
③ 短学活の時間に、記録ノートへの計画立てを通じて家庭での学習時間や内容を明確にした。また、担任が生徒一人ひとりの評価をおこなった。
④ 学期末には教科担任が、生徒に対して個別に指導をおこない、学習支援や助言をおこなった。

【各教科・担任等による指導の重点】

国　語	・　自分の考えを明確にして書くことに年間を通じて取り組ませる。書かせる字数は百字程度とする。 ・　日常生活で起こる身近な事象を取り上げた説明的文章を用いて、内容を読み取る練習を反復させる。 ・　小中の全校生徒を漢字検定に取り組ませる。 ・　授業において、既習事項の振り返りをおこなってから課題設定をする。
数　学	・　図形領域の授業において、導入時に既習事項の図形の振り返りをおこない、知識の定着を図る。 ・　証明問題において、根拠となる事柄を常に明確にする。 ・　１単位授業でおこなった学習内容に合わせた課題をGアップシートから出題し、家庭学習で取り組ませ、基礎基本の定着を図る。次時の導入時に取り組み状況を確認する。
社　会	・　調べ方学習をおこない、関心や意欲を高める活動をおこなう。 ・　資料の読み取りから考察までの一連の活動を意図的に授業に取り入れる。 ・　テーマを持たせ、それに対する仮説を立てさせる。
英　語	・　必修語の習得を目指す。 ・　語彙練習を繰り返しおこない、書けるようになったかどうかのチェックをおこなう。 ・　基本文、基本表現の習得を目指す。書き取りテストを定期的におこなう。 ・　ワークブックを活用し、家庭学習と授業の連動を図る。 ・　長文を読む機会を多く設け、読み取りの方法を練習する。
理　科	・　理科の用語の意味をしっかりと理解させる。 ・　既習事項を活用しながら考察を書くという取り組みを意図的に授業に組み込む。

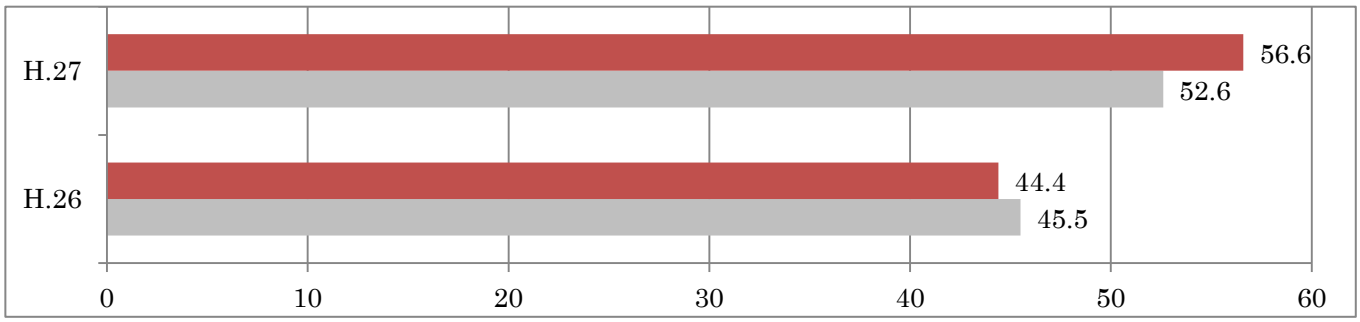
【今年度の目標における成果とその要因】

成果①　どの教科においても、正答率は５０％を上回った。



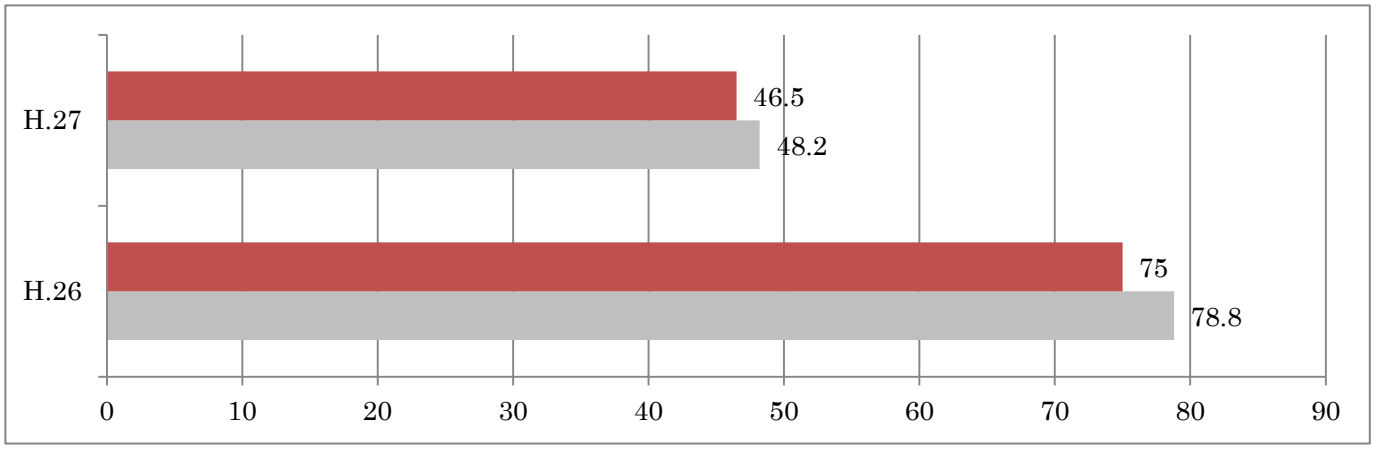
〔要因〕各教科の授業改善、宿題の提示、自主学習指導

成果②　国語において「読むこと」の正答率を７％上回ることができた。（赤・上⇒本校　　グレー・下⇒県）



〔要因〕授業改善　　宿題の工夫　自主学習指導

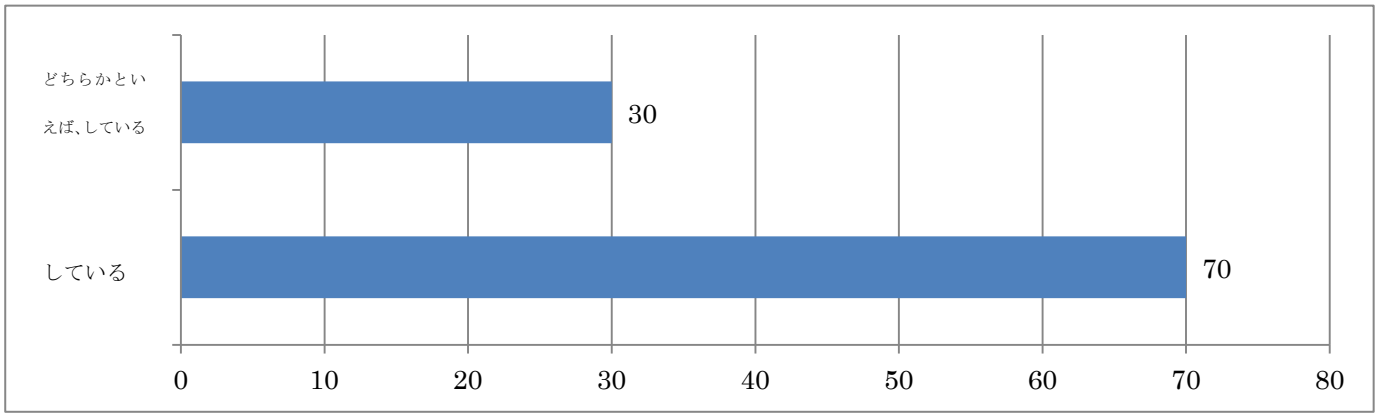
成果③　数学「図形」領域の正答率においては昨年度の県との比較で２%の上昇を見ることができた。



（赤・上⇒本校　　グレー・下⇒県）

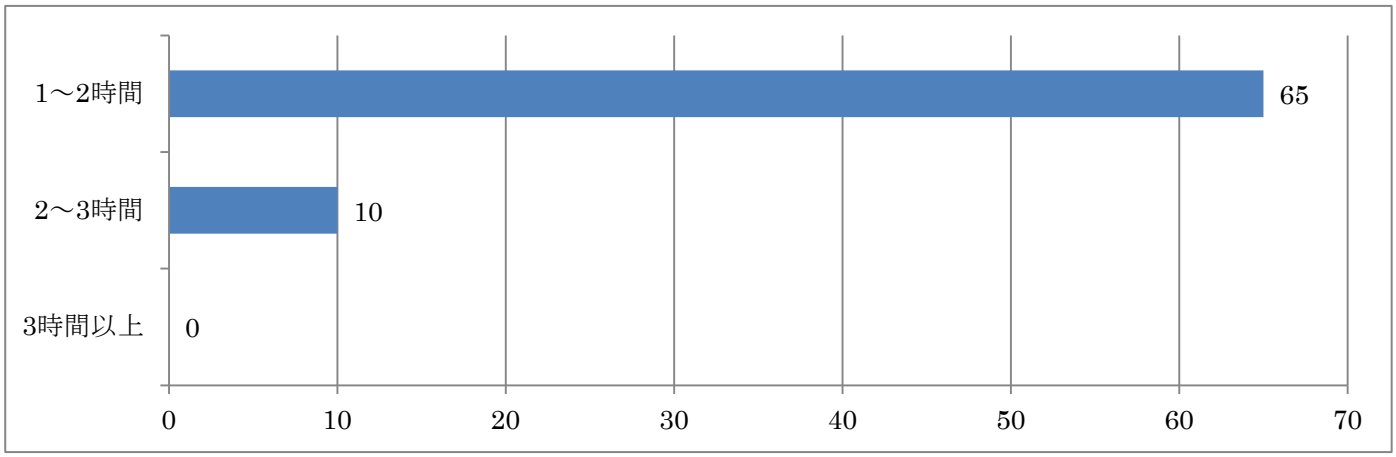
〔要因〕授業改善・Ｇアップシートの活用

成果④　計画を立てて、家庭学習に取り組む生徒が１００%に達した。（質問紙の結果より）



〔要因〕自主学習テキストの活用　　短学活における計画立て指導

成果⑤　１時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒が７５%以上に達した。（質問紙の結果より）



〔要因〕自主学習テキストの活用　短学活における計画立て指導

【その他】

①　全教科で県平均正答率を０・７%～１３・３%を上回ることができた。 ②　質問紙の回答で授業改善の成果が顕著にあらわれている。 ａ授業のはじめに目標の確認をしている⇒９０% ｂ授業中に自分の考えを発表する機会が与えられている⇒９５% ｃ授業中に話し合いを通して考えを深めたり広げたりする活動をおこなっていると思う⇒９５% ｄ授業の最後に振り返る活動をよくおこなっていると思う⇒９５% ｅ各教科の授業の内容がよくわかる　〔国語９０%　数学８０%　社会９５%　理科８０%　英語８５%〕 ｆ勉強が好き〔国語９５%　数学６０%　社会７５%　理科７５%　英語７５%〕 ③　質問紙「自分にはよいところがある」と答えた生徒は、昨年度は１９%だったのに対し、今年度は３５%であった。教育相談などを通じて自己肯定感を育てる取り組みをおこなっていることにより、その効果が上がっている。しかしまだまだ低い状況にあるので次年度への課題としたい。

【次年度への課題】（質問紙の結果より）

①　家庭学習の内容が、宿題と復習が中心となっている傾向が強いので〔 予習⇒１０%　復習と宿題⇒９０% 〕、次年度は予習の指導を重点としておこなっていくこと。 ②「学校の授業で分からないことがあったとき、どうすることが多いですか」の質問に対して「先生にたずねる」と回答した生徒は全体の３０%であった。学習内容を通して、教科担任と生徒がより深くコミュニケーションを図る取り組みを今以上におこなう必要があること。 ③ 生徒の自己肯定感を育成する具体的方策を立てること。 ④ 目指す授業像を生徒と教師が共有すること。

【岩手県学習状況調査の結果を受けた各教科授業改善の視点】

国　語	・　授業の前に読解の演習問題をおこなう ・　漢字検定の取り組みの内容をさらに向上させる
数　学	・　各領域における授業の導入時に落ち込みが見られる内容について振り返りを実施する ・　知識の定着を図るため、普段の授業から数学的な表現（用語など）を大切に指導する ・　問題を解く際に問題文を熟読させ、しっかりと問題を把握させる習慣をつける ・　指導と評価を一体化するため、評価問題を全員が解けるように、まとめ、学び合い、自力解決、見通し、本時のねらい、気づき、問題提示と遡って手立てを明確にする授業改善に取り組む
社　会	・　授業で資料を読み取る活動を積極的に取り入れる ・　資料の読み取りが難しい生徒には、資料の読み取りの視点を与え、支援をおこなう ・　学習内容を文章でまとめる時間を確保する
英　語	・　自然な英語で言えるようになり、英語を理解した上で、書く指導に入るようにする ・　生徒がｗｈ－疑問文を使うような、具体的な状況を設定し、何度も使って慣れさせる ・　身につけさせたい「読み取りの力」を明確にした指導計画を立てる
理　科	・　他領域との関連や系統性を意識させ、折を見て、既習事項の復習がなされるようにする ・　日常生活と関連づけをし、知識の一般化、定着を図る